令和8年度 獨協医科大学大学院看護学研究科博士前期課程入学試験（第1次募集）
【英語】 出題意図・解答例

問題１

【出題意図】

本問題は、日本の看護職を取り巻く現状と課題についての英文を素材とし、内容理解力・文脈把握力・医療英語リテラシーを総合的に評価することを目的としています。特に以下の観点を重視しています。

1. 看護学分野の課題理解
   日本の少子高齢化に伴う看護師不足、都市部と地方の地域格差、労働条件の厳しさ、外国人看護師の受け入れと課題など、看護学研究に直結する社会的背景を理解させることを狙いとしています。これにより、受験生が研究者として将来取り組むべきテーマへの関心を喚起します。
2. 英文読解力の測定
   医療・看護に関する専門的かつ社会的な英文を正確に読み取り、論旨の流れや要点を把握する力を測定します。問題は重要な数値、制度、課題の把握を問う形式とし、単なる語彙知識にとどまらず、文脈依存の理解力を試す構成としています。
3. 批判的・分析的思考の基盤形成
   本文は現状の「課題」と「政策的対応」を対比的に示しており、単なる事実確認にとどまらず、構造的理解を促すものです。受験生は内容を整理する中で、問題の多角的側面（社会的、制度的、文化的要因）に気づき、看護学研究に必要な分析的視点を養うことが期待されます。
4. 専門分野における英語活用力
   将来、国際的な学会発表や研究論文執筆において必要となる「専門性を持つ英文の読解・理解」の基礎を確認する意図があります。本問題を通して、医療英語に対する耐性や基盤的リテラシーの有無を見極めます。

【正答】

問１　B
問２　B
問３　B
問４　A
問５　B

問題２

【出題意図】

本問題は、看護系大学院修士課程志願者の英語読解力、要約力、および看護実践への応用力を総合的に評価することを目的としている。

【正答】

問１　negative
問２　adverse
問３　prevention
問４　prognosis
問５　consent
問６　assessment
問７　medication
問８　symptom
問９　chronic
問 10　infection

問題３

【出題意図】

英文は地球温暖化に伴う熱波の健康影響に関する国際的な公衆衛生情報を題材としており、医療・看護分野で必要となる最新の知識を英語で理解する力を測る。

問１では、医学・看護分野特有の専門用語を含む英文を正確かつ自然な日本語に訳す力を確認する。これは、学術論文や国際的ガイドラインを原文で理解するための基礎能力を評価する意図がある。

問２では、読解した英文の内容を看護職としての実務に結びつける力を測る。実際の地域保健や災害看護の現場を想定し、低コストかつ実行可能な介入を自ら発想し説明できるかを評価する。

これらを通じて、受験者が英語を正確に理解し、日本語で論理的に表現し、かつ看護の専門性に基づいた応用的判断を行えるかを総合的に判断することを目的としている。

問１

【解答例】

熱波とは、異常に暑い日と夜が連続し、局地的に過剰な熱が蓄積する期間をいう。気候変動により、熱波や長期高温の頻度・持続時間・強度・規模は増加している。低〜中程度の熱波でも脆弱な人々の健康と福祉に影響を及ぼす。高温が昼夜続くと人体に蓄積的ストレスがかかり、熱関連疾患や死亡リスクが高まる。熱波は短期間で大規模人口に急性影響を与え、公衆衛生上の緊急事態や超過死亡、労働生産性低下など社会経済的影響を引き起こす。また、電力不足を伴えば医療・交通・水インフラが機能低下する。高齢化や

非感染性疾患（呼吸器疾患、心血管疾患、糖尿病、認知症、腎疾患、筋骨格系疾患）の増加は熱の影響に対する脆弱性を高める。都市は緑地減少や金属屋根など不適切な建材により、都市熱を抑える設計になっていない。熱の健康リスクについての医療者・市民の認識は不十分である。医療専門職は熱曝露の増加を考慮し、急増する入院に対応できるよう指導・計画・介入を調整すべきである。個人から社会までの多層的かつ低コストの介入で命を救うことができる。

問２

【解答例】

介入例１

地域住民への水分補給・涼しい場所への避難指導（理由：脱水・熱中症予防に有効で費用がかからない。特に冷房使用の促進や経口補水の重要性を指導することが有効であるため。）

介入例２

高齢者や持病持ちへの電話・訪問による安否確認（理由：重症化防止と早期発見につながる）

介入例３

高温による健康リスクに関する住民への啓発活動（理由：熱波は予測可能であり、事前に適切な予防行動（例：水分補給、外出制限）を住民が知っていれば、熱中症や関連疾患の発症を減らすことができるため。）

介入例４

熱波時のリスクを予測し、脆弱な患者への優先的対応（理由：高齢者や持病のある人は熱の影響を受けやすく、早期に訪問や連絡を行い、症状の悪化を防ぐことが重症化予防につながるため。）

介入例５

地域や行政と連携した熱波対策プログラムの実施（理由：熱波は地域全体に影響を及ぼすため、医療機関単独では限界がある。行政や地域組織と連携することで、避難所設置や情報発信など広域的な対策が可能になるため。）

介入例６

入院患者の急増時に備えた医療体制の整備と適切なトリアージ（理由：熱波による患者急増時に、救急搬送や病床不足が発生する可能性が高く、症状の重症度に応じた迅速な対応を行うことで限られた医療資源を有効に活用できるため。）